各界に多数の人材を輩出した

懐かしの学舎　村立二宮小学校

二宮小学校校歌

作詞作曲　河野　嘉平次

一、歴史も古き二宮の
丘にそびゆる学び舎は
希望の光　輝きて
われらの力　育まん

二、石見の海のしお風に
耐えてみどりの松の如く
ゆたけく清く手をとりて
共にみがかん　わが心

三、永久にゆるがぬ星高を
仰ぎて高き　その理想
日々にいそしむ人の道
はげみつくさんわが力

（昭和二十五年七月作）

◆二宮小学校変遷

年月日	主な出来事
明治 8・3	神村校創設（夜須神社北東）（神村、森脇善一郎氏を師として塾が開設されていたが、改名されたものと言われている）
9・6	神主校創設（太平寺前）（神主、竹ケ下に於、寺子屋が開設されていたが明治五年の学制実施と共に学校として利用していた）
20	神主小学校、新学令改正発布に付、神主簡易小学校と改称。
23	神村・神主合併。明治二十一年四月、市町村設置条例に依り、二宮村となる。学校は当分2ケ所とし、唱歌のある日は、一台のオルガンを青田理吉氏が背負いで移動し、利用されていた。
38・5・13	第三区十校に宮村字青山にて連合運動会を開催。
39・4	御真影正写　御下賜。
40・5・31	皇太子殿下　島根巡幸六年生浜田まで出迎え。
41・5・2	那賀郡第一部各小学校連合体育会（波子浜）
42	神主、神村校合併、二宮村小学校と改称。
43・10	本校にて川波、都野津三校連合運動会開催。
44	奉蔵庫は元神主校に属せしものを現在のところに移動する。
大正 4・5・7	十ケ町村連合運動会、国分村に於　開催。
5・10・29	大正天皇、皇后、御影、正写

人間形成の上で学校教育の果たす役割は大きい。学校教育基本法公布から六十三年。

時代と共に限りないドラマがあったり、人々はいろいろな形で出発を始め現在を築き、未来を見つめています。数多くの学徒、懐かしい学窓、往時の二宮小学校の面影を辿って見ましょう。新しい世紀に向かい無限の夢と大いなる可能性がある現代の子供達に、今は無き母校の伝統と歴史を受け継いでいただき、私たち大人の果たす役割は、次世代への新しい出発を見守り育て誇れる未来を残す為確かな歩みを続けて参りたいと思います。（森）

広い視野と豊かな人間性を涵養 古い歴史と伝統を誇る 二宮小学校

◆手本は二宮 金次郎

明治以来の国定教科書に最も多く登場した人物は、明治天皇で、次は小学校中庭にある、おなじみの柴を背にした二宮金次郎であった。国定教科書制度が確立したのは、明治三十六年（一九〇三）四月。明治三十七年から四十二年までに使用された修身教科書の小学校三年生用に、少年、二宮金次郎が登場する。孝行・勤勉・学問・自営と

四項目にわたってとりあげられ、明治四十三年（一九一〇）以降、大正六年（一九一七）までの教科書になると二年生用の中に、オヤノオン・コウコウ・キョウダイナカヨクセヨ・シゴトニハゲメ・シンルイ・ガクモン・キンケン（勤倹）と徳目を柴のように背負ってあらわれてくる。小学校二年生で、七課目に登場した金次郎は、さらに高等小学一年生で、第九課、至誠、第十課、正直とふたたび登場し、「手本は二宮金次郎」の小学唱歌に歌われ、富国強兵を担う帝国小臣民の理想像となった。

二宮村立神主尋常小学校

神主尋常小学校は明治九年（一八七六）六月二十八日、第四大学区島根県第二十一中学区四十四番小学区として神主村ィ四三三番地の「竹ケ下」に開設された。当時、神主村では多鳩神社の社司であった、大前真矣が江戸末期から明治初年にかけて村内の子供の将来を考えて、神村、有福村内の青少年を集めて竹ケ下に塾を開いたのが小学校の基盤になった。

学校は竹ケ下から、太平寺の向かいの迫屋敷に二教室の校舎と付属建物が新築移転。明治四十二年（一九〇九）四月の神村小学校と合併するまで真摯な教育が行われ多くの人材が育成された。初代校長は多鳩神社の社司であった大前真矣が江戸末期から明治初年にかけて村内の青少年を集めて竹ケ下に塾を開いており、これが小学校の基盤になった。

二宮村立神村尋常小学校

明治八年（一八七五）四月に神村（上村）小学校が第四大学区浜田県第二十二中学区三十九番小学区として、神村の夜須神社の神楽殿に農兵隊の剣道場を利用し開設された。当時、村人の中には、チョンマゲの人も見られた。格子戸に障子紙を貼ったり、荒むしろを敷いて文机を並べての開学であった。初代の訓導兼校長は、村長の森脇善一郎氏で、養蚕を自ら行い、桑の栽培を奨励し、殖産につとめた人望厚き人であった。神村小学校は、明治三十三年（一九〇〇）までの二十五年間続き、翌三十四年に花の宮の地に平屋建ての校舎と付属建物、運動場が整備され、夜須神社校舎から移転した。

6 御下賜
御大典記念式 挙行
校訓制定
○正直ニセヨ ○上品ナレ
○元気ヨクアレ ○マジメニ働ケ
○親切ヨツクセ
○キマリヨクセヨ
7 二教室 増築。
9 教育勅語発布三十周年記念として、全校生徒一銭宛出費
大王松苗 植栽。
校旗制定（婦人会より寄贈）

昭和
3・10・11 天皇 皇后両陛下 御影 正写
御下賜
江畔オリンピック大会選手出場
8 11・12 高等科読本は農村用を使用、理科の教科書は用いず簸川郡の理科帳を使用。
・以前よりあった援護会の外に卒業生会を結成。
9 夏休みに一回卒業生会を開催。
・援護会費一軒につき、年額三十銭とする。
・尋常科五年以上有志を引率、九州八幡まで修学旅行を実施。
校旗、婦人会より寄贈。
校庭に国旗掲揚台を作る。
国旗は女子青年団の寄贈。
竿木は援護会費にて購入。
台木は村有林より職員にて切り出される。
夏休みに卒業生会を開催、来会者約一〇〇名。
援護会規定一部改正、保護者は年額三十銭、二人以上登校するときは、長児童に対しては三十銭、二人目以下は年額十銭とし、職員は年額三十銭。

昭和

11・2・5 校舎大増改築
五教室の新校舎、講堂、北便所、医務室、昇降口新築、北校等改繕
大正七年増築校舎を移転改築。
普通教室七学級、職員室、裁縫作法室、理科手工室、唱歌室、青年学校教室、理科準備室等。
・昭和十一年以降、卒業生会を開催せず、援護会の会費により活動する。
・毎月十日、集落単位で神社掃除をする。

12・4 書き方手本を用いず書き方学習帳を使用。
理科は教科書を用いず簸川郡編纂の理科学習帳を使用。
全校児童 味噌汁給食を実施。
・職業訓練所併設。
・非常時に対する特別作業割木負、竹出し、菓子売り等。
・出征兵士家庭の手伝い、国防献金、陸軍病院慰問。
自転車一台購入、高等科生に使丁勤務をなさしむ。
大楠公銅像 寄贈(神村、屋号栗北、佐々木サヨ氏)
全校児童検便実施、蛔虫保持者、約七割あり、村長、鹿森義人氏により村内改良便所の指導で三漕式にする者増。

13・14・8 大楠公銅像献納し、台座だけとなる。
・伊勢神宮参拝、京阪旅行。

15・4・1 ・青少年学徒に賜った勅語奉賛会記念とし動会、都野津小学校於て開催(相撲・剣道もあり)
・神社清掃、割木負、土負その他作業、毎月二回。
・出征家庭手伝い慰問袋(四回発送)
・楽隊用具新設(深野坂太氏寄贈)
宮内熊吉氏ピアノ寄贈
・食糧自給生活のため、食糧農産物の生産に努める。
二宮村尋常高等小学校を廃止、新しく二宮村国民学校と改称。
・野球用英語の使用禁止。

18・5 二宮村立青年学校(併置)は都野津町外三ヵ町村立青年学校となる。

19・5・26 滑空訓練受講者 選衡試験実施。

20・10・14 学徒動員報国隊江津・浜田へ出発。

20・9・21 三ヵ町村立青年学校廃止、新しく二宮村立青年学校設置。
・八学級、動員関係により単式となり、第三学期より男女別の複式とし八学級(初等科単式、高等科複式)

21・10・1 二宮村 戸数四三〇戸
世帯数四四九戸
人口二〇〇四人
(男 九二三人
女 一〇八一人)
引揚げ者一二一人
戦災者三七人
疎開者二七六人
修身、国史、地理教科書等戦争に関するものの再吟味。

21・4・23 二宮村学校教育援護会発足する。
学校農園より収納せる小麦二斗を職員給食用として有料で提供する。

21・7・11 新憲法発布記念事業として図書館設置。

22・4・1 校名を二宮村立二宮小学校と改称。

・12・11 青山中学校、二宮分校設置。

・4・15 学校教育援護会発足

・7・11 学習発表会

・7・11 二宮村教育振興村民大会開く。

・12・8 父母と先生の会発足。

23・5・12 島根県軍政部民間情報教育課長ボーン氏の学校査察を受ける。

24・4・1 青山中学校分校廃止

25・5・5 第一回PTA参観日

・8・18 午前十二時四十五分頃旧校舎西端物置より発火、四教室焼失、一教室消火の為破壊。
・焼失校舎復旧作業は村民総出で取組む

25・8・18　保育園建設。
26・11・3　新校舎、新築五教室及び音楽室竣工。
27・4・30　炊事場竣工。
27・11・1　大楠公銅像献納跡台石上に二宮金次郎像を二宮村農地委員会農地解放記念に寄贈。
・11・3　二宮村教育委員会発足「全国健康優良学校」日本一となる。
11・9　祝賀式、村をあげてお祝い。「健康校日本一」。
28・10・26　図書室、浴場完成。
29・4・1　江津市立二宮小学校と改称。
・6・21　江津市PTA連合会発足加盟する。
30・3・5　開校八十周年記念式典関係行事を挙行。
31・11・25　完全給食開始。
32・5・14　島根県珠算競技大会五、六年生出場。
・10・26　公民館、支所へ移転。校内模型飛行機大会（半田浜）
33・10・25　江津市学童模型飛行機大会参加。団体優勝。
・11・28　江津市PTA連合研究大会開催。
34・3・31　江津市立二宮小学校廃止。

江津市立津宮小学校

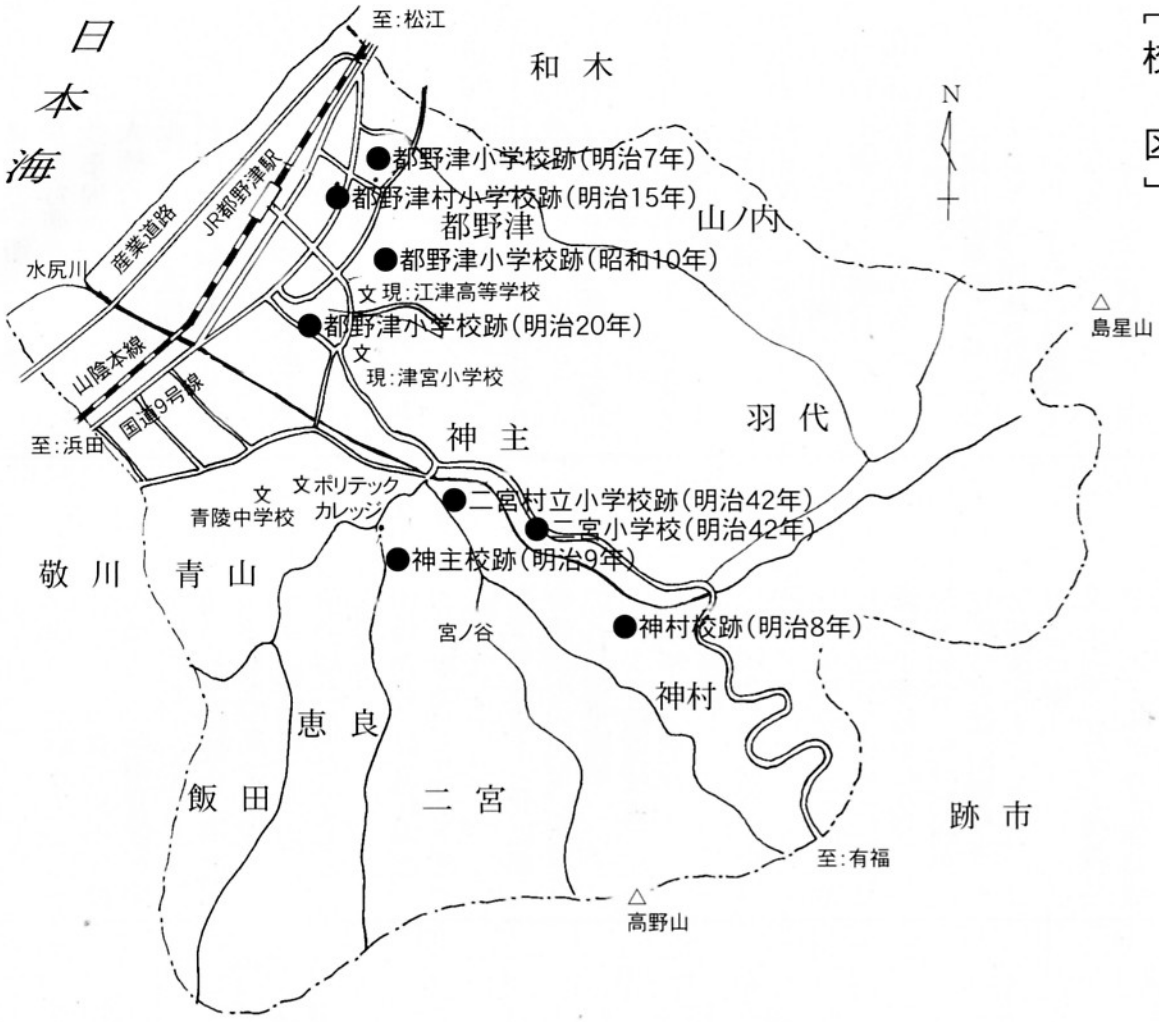
昭和34・4・1　江津市立都野津小学校並びに同市立二宮小学校を廃止、江津市立津宮小学校設置。
・9・5　津宮小学校校舎、第一期工事着工。高学年棟、給食棟、昇降口、低学年棟。
・・　伊勢湾台風救援基金を送る。
・2・3　両校舎共、鼓笛隊編成。右工事完了（低学年棟を除く）。
・4・1　高学年棟竣工と共に都野津校舎の児童、新校舎に入り授業開始。
・4・4　二宮小学校廃校式。
・5・5　低学年棟完工。
・6・1　管理棟着工。
・7・8　二宮校舎児童、新校舎に移動。
7・　低学年棟竣工と共に二宮校舎児童も新校舎に入り津宮小学校の統合。
・・　統合記念、第一回運動会
・・　屋内体育館 附属棟着工。
・1・5・　管理棟完工。
記念植樹
・4・1　高学年棟、低学年棟竣工、第三期工事の体育館落成
新校舎の竣工式挙行。
特殊学級設置。
38・9・30　民有地（畑）を買収し（約七一六坪）校庭を拡張
PTAで整地。
これまでの校地、七、九九五坪が八、七一一坪となり運動場部分が約八、〇〇〇平方メートルとなる。
・10・3　祝賀大運動会を開催し、祝賀式挙行。市長、来賓臨席。
39・7・　気象観測コーナー及び理科観察園造成。
40・4・1　NHK放送教育研究委属校となり放送施設を整備。各学級にテレビ設置。
・6・　中庭等に芝生、樹木植付け整備。
・11・18　島根県放送教育研究大会開催。
42・7・20　水泳プール 竣工。
43・2・9～11　国旗掲揚台完成。交通教室開設、朝八時より国道九号線の信号灯点滅につき、巡査の指導受ける。
・8・5　郷土の先達、故 佐々木準三郎氏の頌徳碑移築と慰霊祭挙行。
44・3・・11・9　校門完成。
・11・1　校舎塗装工事実施。島根県教育研究大会の会場校として授業公開。
45・4・1　県教育委員会、研究指定校となる。
46・2・7　日本水泳連盟より学童水泳優秀校として表彰。
・11・4　県指定校として研究発表大会開催。
48・8・10　プール監視屋根新設。
・8・25　中央登校道路舗装工事完工。
49・10・20　都野津、二宮両登校道路舗装工事完了。
50・5・3　津宮小学校開校百周年を記念し記念植樹、記念碑除幕式、記念式典挙行。
・5・11　開校百周年記念大運動会開催。

▲ 津宮小学校航空写真

▲ 津宮小学校校章

開校百年記念碑 ▶

［校　区］



［歴史と思い出］

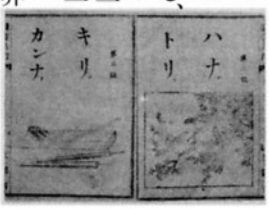
明治五年の「学制」は近代国民教育の構想を提示され、文部省は教科書にも新しい方向を示し、当初は東京に設けられた直轄の師範学校で新しい小学校教科書を編集し、全国的な普及をはかった。明治十年代は、翻訳型と復古型の融合統一。明治十九年から検定制度が実施、明治三十六年に国定制度となる。明治三十七年度から国定教科書の使用。大正七年以後の修正で第一次世界大戦後の社会情勢や教育思想の変化を繁反映している。昭和八年以後は満州事変後の政治情勢や国民思想、教育思想を反映している。

都野津小学校
校章

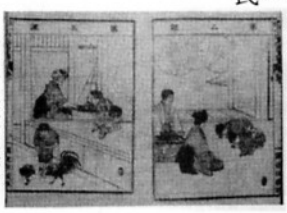
▲都野津校舎

▲二宮（大正１５年度）卒業生

▲都野津（大正２年）卒業生

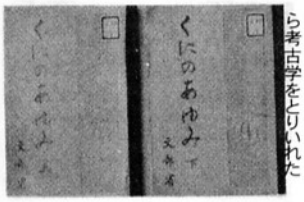


明治十年代の国語



明治二十六年、教育勅語の一年用の修身書

明治四十三年、忠孝の道徳を強調した修身書



「くにのあゆみ」神話から考古学をとりいれた

【明治三十八年頃の子供】

この頃の子供の**遊び**は、男子は鬼ごっこやコマ回し、女子は手毬つきやお手玉などが中心で、男女を問わず、子守りをしながらの学校通いの子が多かった。カバンなどはなく僅かな学用品を風呂敷に包み、履物は足袋か草履か下駄ばき、雨の日は一メートル四方のネルの布を頭に被って通学、毛布のような高級品を持つ子は少なかった。

この頃の**服装**は、和服、男子は袴下ズボン、女子は赤腰巻に前垂れ姿、儀式の時は男女とも袴を着用して登校した。唱歌の授業で机の蓋を両手で叩いてリズム楽器のかわりとした時もあって、音が下の道路まで聞こえたと言う。明治二十年(一八八七)ごろ最新式のオルガンが村費で購入され、神主神村の両小学校が一週間交替の持ち回りで使用され、青田利吉氏が背負って運んだ。学用品は、教科書の他は石盤と石筆、習字の用紙は墨で黒く塗りつぶした紙を乾かして、その上に筆で水をつけては書く万年草紙と呼んでいた。

【江津市立二宮小学校】

明治二十二年(一八八九)四月、市町村設置条例により、神村・神主村・飯田村の三村が合併して二宮村となる。

明治四十二年四月二宮村大字神主ィ一三二番地(市立清江園)の地に新校舎(木造平屋建て校舎一棟と職員室、便所、物置など)併せて運動場を整備し、両校が統合して二宮村尋常小学校と改名。大正五年(一九一六)四月より高等科が設置され尋常科六年、高等科二年の学級編成となり、七年五月に更に二教室が増築されて二宮村尋常高等小学校となる。同年十月、今上天皇(大正天皇)、皇后陛下の御真影が下賜され、御大典記念式が行われ盛大な奉祝行事が村内並びに学校で行われた。

大正六年校訓が制定された。

・正直二セヨ　・上品ナレ
・元気ヨクアレ　・マジメニ働ケ
・キマリヲヨクセヨ　等を徹底した。

大正九年教育勅語発布三十周年記念式が行われ記念に、全校児童一人一銭を拠出して二本の大王松を購入、玄関前の中庭に左右対称に植樹した。向かって右側の松は枯れたが、左側の松は成長し、この木の前で多くの卒業生写真が撮影された。

昭和六十二年(一九八七)松喰虫に侵され伐採された。

▲二宮小学校 最後の運動会(昭和34年)

▼江津市立　清江園